

みを知つて精進力の乏しい人もある此の様な人は
始んど北海道の熊の様である、それ熊は魚を取る
と云ふ點に於ては實に巧みではあるが其の尾を結
ぶ事を知らぬ故に皆んか尾からぬけてしまふので
ある、故に此の兩者相伴はねはならぬ論語の中に
『譬如爲山未成一簣止吾止也譬如平地雖覆一簣進
吾往也』古來有名な發明家、政事家、事業家、教
育家、宗教家等多いが皆此の忍耐と精進に依て世
の中に進み活動したのである六百有餘年の宗祖の
御一代を能くく觀察するに是れを示されてある
あの鳥も通はぬ北海佐渡ヶ島一間四面の辻堂に雪
は積りて屋根よりも高い、壁は落ちて身をつく様
を寒風をしのぐ事も出来ぬ中に泰然として御經
の御讀誦『今日蓮末法に生れて妙法蓮華經の五字
を弘めてかゝる責めにあへり佛滅後二千餘年日蓮
の外法華經の故にかくまで身を苦しめたる者あり
とも覺えず日本國の萬民惡まは悪くめ釋迦多寶十
方の諸佛に譽められまいらせば其面目悦ひ身に
餘れり日本國一切衆生の苦を受けるは是れ日蓮一

人の苦なり』と日本國一切衆生の爲に御忍び遊ば
さり又『師子王の如くなる心をもてる者必ず佛に
なるべし例せば日蓮が如し日蓮は日本國の棟梁也
予を失ふ者は日本國の柱を倒すなり、我日本の柱
とならん我日本の眼目とあらん我日本の大船とあ
らん』と大勇猛な堅き決心を有し。わたう二陳三
陳つゞき迦葉阿難にもすぐれた天台傳教にもこへよ
かし僅か小島の主等がをどさんをれじて閻魔のせ
めを何かにせんと、活々とした御教示を下さりた
のである日本國民否吾等門下たらん者第二の日蓮
として二陳三陳と宗祖のあとを續いて進まねばな
らぬ。(をばり)

迷信を打破せよ

山 間 道 人

由來、洋の東西、國の如何を問はず、原始時代
にありては迷信的信仰の存せしは、史實に徴して
明あり。これ太古の人智未開の時代にありては、

唯一の安心の、手段として認められしは、また當然ありとす。然りと云へども、人智既に開發せる現代に於て、尙斯の迷信の存するは、吾人信仰を所談とする宗教家としての立脚地よりして、之を見れば研究すべき大問題たらざるべからず。

今や我が帝國は、數次の戰に勝を制し、遂に世界有數の強國として、列強の班に列あり、また右より君子國として人も認め自も許すものあるに、國民思想の表現たる宗教の信仰に於て、野蠻の風猶去らず、原始的最下級の信仰（迷信）によりて其進むべき正道をすら失ひて、彷徨するに至りては其榮譽ある國家の体面に及ばず影響や果して如何。國民の信仰は、國家の文明、及び、民心の歸嚮するところを窮知し得べきものとなすは、學界の定論あり。然らば愚の極なる迷信妄信の輩多々ありと云はば、國民思潮及文明の低劣なるを想見して、余りありと謂つべし。然らばこれ國家の屈辱として、大なるものならずや。眞の信仰を以て立つ宗教の威信をも失ふべき大問題ならずや。

翻て思ふに此の迷信の、一國の風教、社會道德、に及ばず連鎖的事實に徴して鑑みるも、實に怖るべき害毒を民心に流すは識者の既に認むるところなり。例せば一の生殖器を象りて祀り、以て之を崇拜するものなりとせんか、其拜者の心理上の作用は遂に不知不識の間に、自ら淫心を生じ、自然の勢として懦弱の源をなし、延ては無恥不廉破倫のものとなすや知るべきのみ。此の如きは得て流行し稍もすれば一の忌むべき時代精神を形成し、進んでは一國の精神を亡ぼし、其体をも滅ぼすに至らん事推して知るを得べきあり。爲政者は、小なりと云へども、反逆者を怖るゝ事甚しきものあるも、而かも迷信（國家を危機に陥るゝ）を恐るゝの念毫もなく、平然として袖手傍觀し、對岸の火災視せるは彼等亦無智なりと云はんか。所謂一を知りて二を知らざるの徒あるか。遡りてかゝる迷妄の信仰の現今に至るも、絶えざる其罪那邊にありやを考察するに、彼の武家の輩、天下の治權を掌握せしより、所謂武家佛教からざるものは如

何に深遠なる哲理を有するもこれを壓迫し、其宗義を演ぶる事を禁じたるが故に、先哲も涙を呑みて、山に逃れ、隠れ、遂に一の山間佛教を形成し止むなく之に甘んじ來り、社會の信仰をも誘導する事なく恰も死佛教の觀を呈したりし其餘習今猶存するなり。然れどもそは一面の見解にして、再往之を見れば先哲諸師も、山間佛教の何等拘るところ無きに狎れ、宗教家てふ立脚地を忘れたる所謂、無自覺、無信仰、無氣力なる宗教家自身の罪に歸せずんばならず。吾人は先哲を罵り以て死屍を鞭つが如きは決して快しとするものにはあらざれども現下の宗教的墮落を見ては黙すべからざるものあればなり。今や覺めむとしつゝある、吾人宗教家は、須く國運をして危機に導く迷信を打破し、一切衆生をして、久遠本佛に歸命せしめ、唯一の歸依所たらしむる眞の信に導き、正しき宗教の安心を得せしめざるべからず。これ國家の体面を保ち、國家の危機に至るを未前に防ぎ、一同に本佛の慈光に浴するに、宗門の權威を遠永に示す

所以のものあり。故に予は愛國護法の誠意を致さんとする、青年求道者は迷信を打破するを、第一の急務ありと敢て云ふ。叫ばざるべからず迷信打破!!

三日坊主の代表者

結 城 瑞 光

『何だつて己は學校の課業なんぞに、こう苦しまされるのだらう』と或時ふと、こんな事を考へて、溜息を吐いた、『己はこんな事に勉強しなけりやからない運命を持つて居るのだらうか』と、又つぶやかざるを得なかつた。

あゝ夏は厭やだと、思はぬ日は一日もあひ、朝は起られぬあひし、とは云へ、四時には本堂へ出かけりやならぬあひし、御經が終れば、掃除に懸らねば、れこられるし、晝は暑しいし、又夜は眠い、こうやつて己は何時が理想か、勉強時間だか見出す事が出来ぬ、然も、大聖人は身延山御書に『晝